

群 教 セ	G09 - 03
	平 29.265 集
	英語一高

要旨を的確に捉え、主体的に深く 英文を読むための授業の工夫

—リテリングやオピニオンライティングを通して—

特別研修員 都丸 和也

I 研究テーマ設定の理由

高等学校学習指導要領におけるコミュニケーション英語Ⅲの目標には、「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする」とある。しかし、大学入試を控えた3年生の授業では、読むことを通して情報や考えを理解することに終始してしまうことも多い。学びを生かし、グローバル化に対応できる生徒の育成のためには、英語を自ら使いながら内容を正しく、深く理解し、読解力を向上させる学びが必要であると考えた。

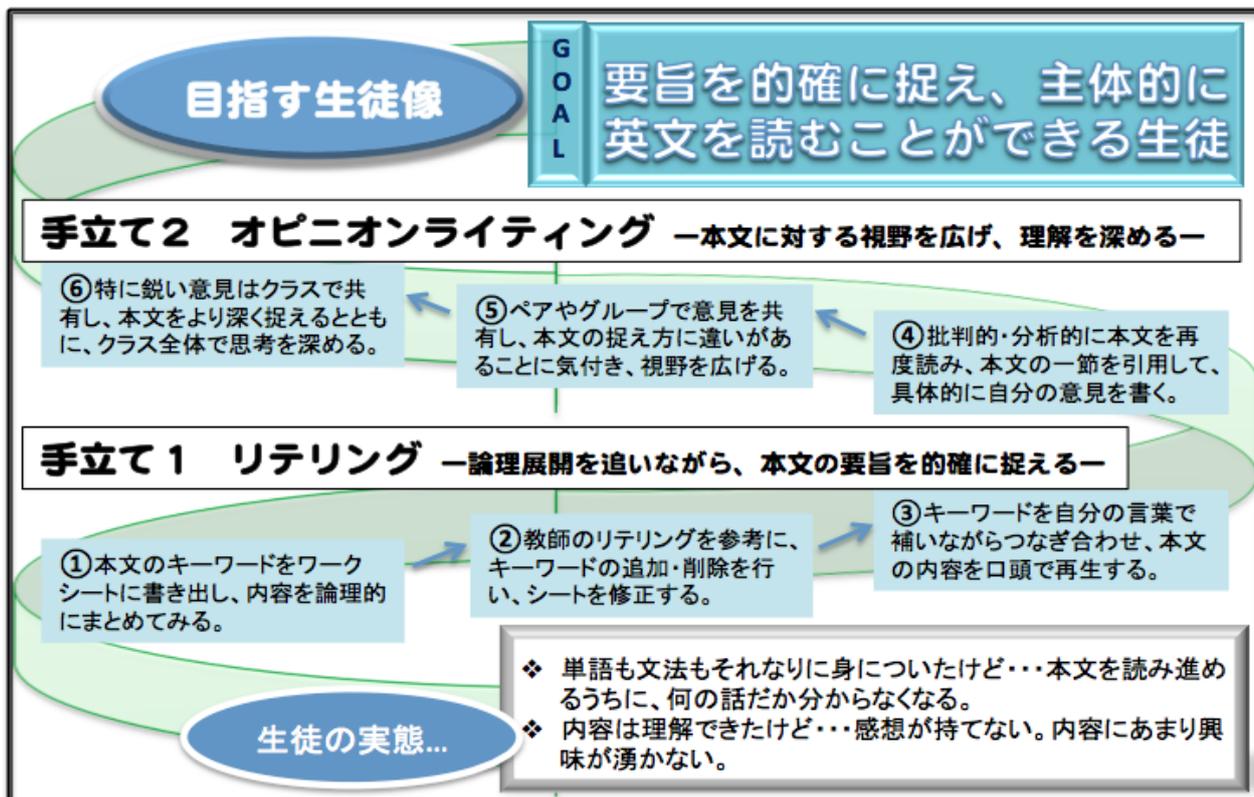
研究テーマとした、要旨を的確に捉えるということは、実際にその要旨を他者に伝えることができれば、正しく捉えていると判断できる。そして、どの程度捉えられているかを図り、理解を高める活動として、リテリングを取り入れる。

また、主体的に深く読むということは、本文の内容に対して自分自身の考えを持ち、熟考しながら、著者と対話的に読むことだと考える。オピニオンライティングで自分の意見を述べ、さらにその意見をクラスで共有することで、本文に対する考えが深まり、新たな視点も持つことができる。

以上のことから、本文に対する理解のプロセスや意見を共有することで、要旨を的確に捉えながら主体的に深く読解できる生徒を育成したいと考え、上記のテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

要旨を的確に捉え、主体的に深く英文を読むための授業の工夫として、以下の二つの活動を用いて授業を行う。

手立て1 リテリング

リテリングは、本文のキーワードをつなぎ合わせながら、本文の内容を口頭で再生する活動である。リテリングを行うためには、文と文、パラグラフとパラグラフのつながりを論理的に捉え、自分自身の言葉を補いながらキーワードをつないでいく必要がある。この活動を取り入れることで、文やパラグラフのつながりが明確になるため、論理的に英文を読めるようになり、要旨を的確に捉えられるようになる。特に論説文においては、著者の主張や、それを支えるための例や事実がどのような構成で書かれているのかを理解しやすくなる。また、英語を書く活動であれば、自分のペースで考えながら表現することができるが、リテリングは英語を話す活動なので、言葉と言葉の間に必要以上に長い間ができると不自然になる。そのため、頭の中で本文の内容が論理的に整理されていない限り、スムーズにうまくまとめていくことはできない。

手立て2 オピニオンライティング

オピニオンライティングは、本文に書かれている事実や、主張を引用し、自分自身の意見を自由に述べる活動である。本文に対して意見を述べるためには、本文の内容をより主体的に深く理解しようとする姿勢が必要である。また、意見を説得力あるものにするためには、リテリングと同様に、論理立てて述べる必要がある。意見を書いた後は、お互いの意見を共有することで、自分では気付くことができなかつた深みや面白さを文章の中から見出すことができる。この活動を通して、本文の内容をより深く理解すると共に、文章に対する新たな視点を持つことができる。

III 研究のまとめ

1 成果

成果を検証するための判断材料として、本文に対する理解度をそれぞれの活動前後にチェックした。

- リテリングにおいては、86%の生徒が本文に対する理解が深まったとしているので、文と文、パラグラフとパラグラフのつながりが明確になったと考えられる。また、授業では論説文を読む機会が多かったが、論説文には書き手の主張と、それをサポートするための事実や例が論理的に示されており、生徒の本文に対する理解が深まったことを考慮すると、論理的に読解する力も向上したとも考えられる。生徒の活動に対する感想の中には、「日本語訳を読むよりも、リテリングを行う方が頭の中が整理されて、英語を英語で理解できる」というコメントもあり、日本語を介することなく英語を理解する力が付いていることが分かった。
- オピニオンライティングにおいては、78%の生徒が、本文に対する理解が深まったとしている。著者の主張や本文で取り上げられている事実や例に対して、自由に意見を述べることに面白みを感じる生徒が多く、生徒の創造性や知性を引き出すことができる活動となった。また、ワールドカフェの手法や ICT 機器を活用して、個々の意見をグループやクラスで共有することができた。異なる考え方や、素晴らしい意見にふれることで、本文に対する理解が深まると同時に、良い意見を書くための刺激を受けた生徒も多かったことから、生徒の英語力を向上させるだけでなく、批判的・分析的に読もうとする動機付けにつながった。

2 課題

- 内容をまとめるだけの活動から、内容をまとめたうえで自分自身の意見を加える、またはペアで英問英答形式で内容をまとめていくなど、単元に応じた活動内容の調整がうまくいかなかった。リテリングの種類を増やし、活動に幅を持たせる必要がある。
- オピニオンライティングの後、授業内で効率よく、多くの意見をクラス全体で共有することが大切である。素晴らしい意見を授業内で教師が瞬時に見極めて、クラスで共有するための手順と設定の工夫が必要である。

実践例

1 単元名 「Lesson 14 Language Extinction」 (第3学年・2学期)

2 本単元について

本題材は、世界中で多くの言語が急速に消滅している事実を踏まえ、人類において言語の多様性が重要であることを述べている。多くの言語が消滅していることは生徒にとって周知の事実であるが、使用者の少ない言語が消滅することがなぜ問題なのかを学ぶことは、生徒にとって新鮮なことである。本題材では、言語の多様性が重要である具体例として、アボリジニの言語が取り上げられている。西洋医学で治療することができない皮膚炎がオーストラリアで蔓延した際、ある看護師がアボリジニの知識をもとにして治療に成功した話である。アボリジニの言語は急速に消滅しつつあるが、アボリジニの言葉が残っていたからこそ知識が伝わったことをこの話は示唆している。生徒には、グローバル化に伴って、言語が我々の想像以上のスピードで消滅していることを読みとらせると共に、言語の多様性について、あるいはその価値の有無について考えさせることができる。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し、実践した。

目標	著者が主張する言語の多様性の重要性について理解したうえで、それに対する意見を書き、クラス内でそれぞれの意見を共有して新たな視点を持つことで、本文に対する理解を深める。	
評価 規 準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	本文に対する自分の意見を他者に伝え、他者の意見をしっかりと聞こうとする。
	外国語表現の能力	本文の要旨を再生したり、自分の考えを述べたりすることができる。
	外国語の理解の能力	本文の要旨を把握することができる。
	言語や文化についての知識・理解	言語の多様性が重要であることを理解することができる。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第1時	・設問に答えながら本文の内容を読み取る。 ・本文全体の要旨を考え、リテリングシートを作成する。
課題追究 まとめ	第2時	・前時に作成したリテリングシートをもとに、口頭で本文を再生する。 ・本文の一節を引用し、自分の考えを述べ、他者と意見交換する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全2時間計画の第2時にあたる。前時に作成したリテリングシートを活用しながらリテリングを行い、全体の内容を的確に捉え、オピニオンライティングを通して、より主体的に深く本文を理解することを目標として、次のように手立てを具体化した。

手立て1：リテリング 要旨を的確に捉える

前時に生徒は、リテリングシートを完成させている。本時では、教師が黒板にキーワードを書き出しながらリテリングのモデルを示し、生徒はそのモデルを聞きながら、自分のリテリングシートを修正する。この段階で、生徒は自分の読解と教師のモデルとのズレを認識し、自分の理解度を把握することができる。次に生徒は、個人・ペアの順でリテリングを行う。ペアワークでは、お互いの成果を見せ合うとともに、他者を意識することで、より適切な表現や論理展開、さらには発音・抑揚・速度にも注意しながらリテリングを行う。

手立て2：オピニオンライティング 主体的に深く読む

前時に生徒は、最も印象に残った一節を本文から引き抜いている。本時は、リテリングで要旨を把握した後で、印象深い一節をもう1度引き抜く。引き抜く箇所が変わっていれば、本文に対する読解が変容したことを意味している。次に、その引き抜いた一節を引用して、自分自身の意見を書く。その内容は賛成意見、反対意見、または感想でもかまわないが、具体例や事実を示すことで自分自身の考えを説得力があるものにする。授業の最後には、意義深い意見をクラス全体で共有し、本文に対する視野を広げながら、読みを深めることを目標とする。

4 授業の実際

(1) リテリング

教師のリテリングを真似するだけでなく、まずは生徒が自分自身で本文の内容をまとめるという姿勢を大切にしたい。その後で、教師のモデル(図1)を参考にしながら、生徒は前時に作成したリテリングシートを修正していく(図2)。そのような段階的な作業を通して、生徒は本題材の論理展開(枠内)におけるキーワードをリテリングシートにまとめた。

①世界中で言語が急速に消滅している**事実** → ②だが、英語やフランス語などの主要言語を使う人間にとっては、その何が問題なのか?**問題提起** → ③全ての言語に豊かさがある**主張** → ④オーストラリアで蔓延した皮膚炎がアボリジニの知識で解決した**例示** → ⑤知識は言語を通して伝えられる。言語が消滅すれば多くの文化や知識(豊かさ)が失われる**主張を補強** → ⑥全ての言語には独自の世界観がある。言語の多様性が文化的多様性を支えている**主張をさらに補強、及び結び**

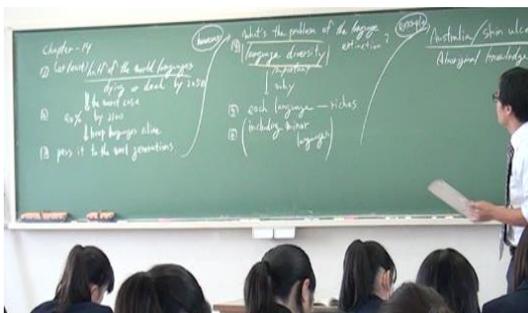


図1 リテリングのモデルを提示

モデルを聞きながら…

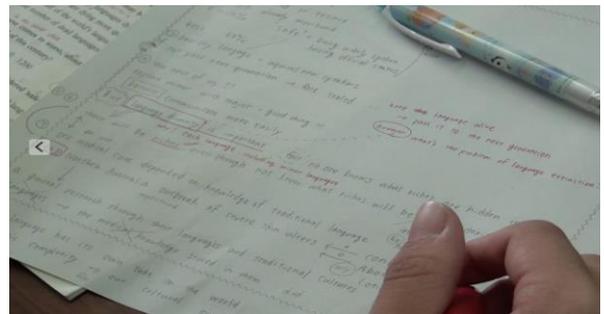


図2 リテリングシートを修正する様子

次に生徒は個人で10分間、ペアで5分間のリテリングを行う。本文を口頭でまとめる作業なので、即興的に英語を使う能力が求められる。また、ペアワークを行う際は、相手に理解してもらえぬ発音・抑揚・速度を意識してリテリングをする必要がある。繰り返しリテリングをすると、著者の主張がより明確に理解できることを生徒は理解しており、積極的に声を出して活動に取り組む姿が見られた。また、前時の生徒のリテリングシートを確認すると、①**事実**→②**問題提起**→③**主張**の流れを理解できていない生徒が数人いた。また、⑤**主張の補強**→⑥**主張の補強、及び結び**が内容的に重く、抽象度が高いパラグラフであったため、本文全体の中での位置づけが見えていない生徒もいた。しかし、いずれの生徒においても、リテリング活動後に本文の内容が捉えられるようになったと自己評価している。

(2) オピニオンライティング

リテリングで本文の要旨を的確に捉えた後に、本文の一節を引用して意見を書いた。賛成・反対どちらの意見でも構わないことを生徒に伝えたが、今回のトピックに関しては、多くの生徒が本文に対して肯定的な意見を述べた。書き終えた後は、ペアでその内容を確認し合い(図3)、教師が特に興味深い意見だと判断したものや、他のクラスからの意見や教師自身の意見を生徒に紹介した。全体で共有する際は、ICT機器を活用して、スクリプトをスクリーンに投影し、生徒が理解しやすいように支援した(図4)。その効果として、最後まで集中して他者の意見に耳を傾ける様子が見られた。また、全員がスクリーンに映し出されたスクリプトを見ることで、1つの意見を全体で共有している雰囲気がクラスに生まれ、協働学習が生徒の学びを促していると感じた。



図3 意見をペアで伝え合う様子



図4 クラスで意見を共有する様子

次に、生徒が書いたオピニオンライティングを紹介したい。

I quote, “We depend on linguistic complexity for our cultural survival.” because I agree with this sentence very much. We have an original culture and senses which are based on Japanese language. For example, there is a word “Mottainai” in Japanese, and much of Japanese culture is based on this sense. However, I guess not many languages can express this sense with a simple word like “Mottainai.” So, if Japanese language dies, people might lose this sense. So, I think culture depends on language. This is why I chose to quote this sentence.

本題材で、著者は「言語の多様性は重要である」という主張をサポートするために、「オーストラリアで蔓延した皮膚炎がアボリジニの言語・知識で解決した」ことを例として取り上げた。この例では言語の消滅が知識の消滅につながることを示しているのに対して、上記の生徒のライティングは「もったいない」という人間の感覚が言語の消滅によって失われる可能性があることを主張している。このライティングから、生徒が主体的に本文を読み、著者の主張を深く理解していることが分かる。また、このライティングをクラスで共有したことで、やや抽象的な “We depend on linguistic complexity for our cultural survival.” という英文を、日本語で訳す以上に英文を解釈し、著者の言わんとすることを深く理解することができたと述べる生徒もいた。

その他にも本題材に対する反対意見として、「少数派言語の研究を早急に進め、有益な知識を記録保存した後で、世界の言語は一つになるべきである。なぜなら、一つの言語ならより良く意思疎通を図ることができ、現代社会の1番の問題である紛争の解決につながる」というものもあった。この反対意見もクラスで共有し、本文の解釈の幅を広げることができた。

5 考察

(1) リテリング

活動に取り組んできた生徒に無記名でコメントを求めたところ、「文章を読めた気がしていても、リテリングをしようすると全然できず、自分が分かった気になっているだけだと気付いた。」といった感想が多く出てきた。これまでは、問答形式の設問に正解すると、何となく本文を理解したつもりになっていた生徒が多かったが、解答するために読むのではなく、筆者の伝えたいことや要旨をしっかりと捉えて読むための手段として、リテリングは有効であったと考える。「大変な活動だけど、文の流れや、全体で何を言いたいかを英語で理解できるからすごく勉強になります。家で長文を読んだ後は必ずこれをやってから日本語訳を読んで、間違っただけで解釈してしまっただけを直しています。」という感想からも、長文読解への意欲につながったと考える。また、生徒の活動の様子から、文やパラグラフの流れをしっかりと感じながら、全体の要旨を捉えられているため、読解の成果を上げることができた。

(2) オピニオンライティング

生徒が書いたものには、単語帳で覚えた単語を無理やりにつなぎ合わせた文章が散見され、コロケーションに違和感があるものが多かった。アウトプットすることも大切ではあるが、まずは良質なインプットが非常に重要であり、オーセンティックな英語に多量に触れる機会を与えていくことの大切さに、この研究を通して気付いた。それでも生徒はこの活動に対して前向きであり、「友達と意見交換をすると、同じ文章を読んでも別の捉え方があることに気付けるし、理解が深まる。上手な人の文はお手本にもなったし、刺激にもなった。」といった感想を述べる生徒も多かった。この手立てを通して、本文に対する理解を深めることができたと同時に、本文の内容と自分自身を関連付けながら英作文を書く動機付けにつながった。

英作文においては丁寧なフィードバックを欠かせないが、全ての単元で行うことは難しい。長期的なレッスンプランを練り、オピニオンライティングのレッスン、ディベートのレッスン、簡潔に進めるレッスンなど、緩急を付けた授業の工夫をすることで、フィードバックの時間を確保し、生徒たちのオピニオンライティングがより高度化すると考える。